

一輪のサツキによせて

河内村役場

企画広報課

菊池

孝



とうとう一輪のサツキが咲いた。

庭の片隅に数鉢ある中で、どう云うわけか、たった一つだけが……。それも花盛りを過ぎた11月初旬の頃であった。

朝もやの立ちこめる中、淡い紅の色を透かし、健気に咲く姿は、華やかに咲く頃とは、また異った趣きがあり暫し見とれた。どこか辺りの空気に緊張を与えるような気品が、それにはあった。

多少、園芸に興味をもって私は、サツキと出会ったというか、魅力に取りつかれたのは、8年程前、あるサツキ展をのぞいたのがきっかけであった。

出品されたサツキは、それぞれが自信作ばかりとあって、皆、見ごたえがあった。

老松のような重厚な樹形に色彩豊かな花を持つアンバランスさが興味を引いたり、岩に根を巻きつけ、花もさることながら根張りの美しいものがあつたりと、見るべきものは数知れなかった。

そして何より、他に類を見ないサツキの花柄の美しさである。覆輪咲き、底白咲き、絞り咲きなど千差万別に咲き分けていた。

期待せずに出かけたのが良かったのか、私は素直に感服した。

時を同じくした頃、知人のIさんに会い近くのソバ屋に入った。久しぶりに会う彼に、何気なくサツキ展での話をすると、彼は身を乗り出して聞き入った。彼は、大のサツキ愛好家だったのだ。

私がサツキに興味を持った事を知り、後は自宅

にあるサツキを見せたいと言った。私はソバの味も分らぬまま、さっそく彼の自宅へと向った。

一步中庭に入ると、そこは、まさにサツキの園……。百鉢を越すであろう、さまざまな花達が私を迎えてくれた。私は、圧倒され「水やりも大変でしょうね。」などと、ありきたりな質問をしたものだった。彼は、自分の生きがいだからと笑った。

「サツキってやつは、可愛がれば必ずきれいな花となり応えてくれますよ。」

そう言って手渡された一鉢が、サツキへの入門であった。

しかし、新米の悲しさ、水やりなど一生懸命に管理したつもりでも、葉ダニなど病害虫に取りつかれ、なかなか思うようにはいかないものだった。

翌年の開花期には、あまりにもみじめな姿で、彼からの近況を尋ねられた時には、申し訳ない思いで、ボチボチとだけ答えた。

あれから、ずいぶんと月日が流れたが、彼の手ほどきで植替えや肥料の加減、剪定など少しは、サツキへのノウハウを修得できた。

今では、手前流に育てた鉢々が花時には、私を楽しませてくれるほどになった。

「可愛がれば必ずきれいな花となって応えてくれますよ。」

Iさんの言葉が想い出され、なつかしい。

これは、花ばかりでなく何事にも通じるものだと感じつつ、朝もやの中の一輪をもう一度見つめた。

経 済 動 向

国内の動き

● 設備投資、年度内は高水準

湾岸危機による原油価格上昇や高金利にもかかわらず、景気拡大を支えてきた設備投資は少なくとも90年度中は高水準で推移しそうだ。経済企画庁が発表した機械受注統計（季節調整値）によると、民間設備投資の先行指標である「船舶・電力を除く民需」の9月の受注額は前月比6.2%増

の1兆1132億円と8月に続いて過去最高を更新した。同時に発表した90年10～12月の見通し（船舶・電力を除く）は3兆1687億円で前期（7～9月）比0.9%減となったが、企画庁は「受注の増勢テンポは鈍るものの大きく落ち込むことはない」とみている。（11月14日付 日経）

● 都銀・長信銀、30%台の経常減益

都市銀行、長期信用銀行が発表した90年9月中間期決算は、都銀合計で経常利益が前年同期比で39.4%、長信銀も31.5%の減益になった。金利の上昇による利ザヤの縮小と株式、債券相場下落に伴う多額の償却が発生したため。しかし、外国為替関連など銀行の経理基準の変更に伴う各

行共通の特殊要因を除くと、都銀は同51.4%もの経常減益になる。本業のうけを示す業務純益も都銀、長信銀とも減少、都銀のうち10行が純資産を減らすなど規模追求による利益拡大が限界にきたことがはっきりした。

（11月22日付 日経）

● 対外直接投資、10%強減る

日本企業の海外投資にかげりが出てきた。大蔵省がまとめた90年度上半期（4～9月）の対外直接投資額は276億7700万ドルと前年同期よりも10%強減少した。半期ベースで対外直接投資が前年同期を下回ったのは企業の海外投資が本格化した86年度以後では初めて。松下電器産業の米MCA

社買収（総額で約61億ドル）が下期に加わった場合でも、年度ベースで82年度以来の減少となる公算が大きい。円高に対応した製造業の海外現地化の一巡や金融機関の海外投資が一服したことなどが原因。日本企業の対外進出が転換点を迎えたことの見方もでている。（11月29日付 日経）

県内の動き

● 公共ふ頭の整備本格化、鹿島港

県は鹿島港の公共ふ頭の整備計画を本格化する。来年度中に従来の「南公共ふ頭」を全面稼働させるほか、平成4年度をメドに外港部に大型船用の「外港公共ふ頭」を新設、また平成7年度までには同港の北部にセメント、鉱産品、金属類などを扱う「北公共ふ頭」を新設する。平成7年時

点で公共ふ頭で処理できる貨物取扱量は約300万トンで現在の約5倍にふえるという。好景気を背景に公共ふ頭の取扱貨物量が国内貿易を中心に年30～40%のペースで急速に拡大しており、県では公共ふ頭の整備による物流体制の拡充を急ぐ考えだ。（11月12日付 日経）

● 江戸崎町に工業団地、95年度に分譲

茨城県開発公社は茨城県江戸崎町の羽賀地区に工業団地を造成する。91年度中に用地買収を完了し、95年度の区画分譲を目指す。同地域は成田まで20kmたらずと近く、首都圏中央連絡自動車道（圏央道）の整備で交通の便も向上するという立地条件を生かす。造成面積は48ha。県開発公社が町に用地買収のための事務処理を委託、40億～50億円で

全用地を買い上げる。工場用地は全体を6区画に分け、1区画2～7ha程度とする。圏央道が開通すると、成田空港など交通拠点へのアクセスが充実するため、大手メーカーや外資系企業の進出が期待できる。同公社では「業種は特に絞らずに分譲面積も企業の希望に応じて考えたい」と言っている。（11月16日付 日経）